

## 第28回 都市環境エネルギーシンポジウム 開催報告

1. 主催： 一般社団法人都市環境エネルギー協会  
後援： 国土交通省、神戸市  
協賛： (一社)日本熱供給事業協会、(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター  
(一財)コージェネレーション・エネルギー高度利用センター  
(一社)日本建築学会、(公社)空気調和・衛生工学会  
(公社)日本都市計画学会
2. 日時： 令和3年11月11日(木) 13:30~17:00
3. 会場： 神戸国際会議場 国際会議室301
4. テーマ： 「脱炭素化とBCDを考える」シンポジウム
5. プログラム(敬称略)
  - 基調講演「カーボンニュートラル都市への課題」  
大阪大学 大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 教授 下田 吉之
  - 基調報告「脱炭素化とBCDに向けたまちづくりに関する国土交通省の取組みについて」  
国土交通省 大臣官房技術審議官(都市局) 渡邊 浩司
  - 基調報告「神戸のまちづくりにおける取組み」  
神戸市 都市局長 鈴木 勝士
  - 基調報告「Daigas グループのカーボンニュートラルビジョンとBCDへの取組み」  
大阪ガス株式会社 代表取締役副社長執行役員 田坂 隆之

【パネルディスカッション】

基調講演者	下田 吉之
基調報告者	渡邊 浩司
基調報告者	鈴木 勝士
基調報告者	田坂 隆之

以上のパネリスト4名

[コーディネータ] 本協会理事長 尾島 俊雄
6. シンポジウム入場者数

有料受講者	105名(会員78名、一般23名、学生4名)
中央官庁・自治体・団体機関等	13名
講師・協会関係者	17名
合計	135名
7. 見学会 日時 令和元年11月12日(金)  
場所 神戸水素 CGS エネルギーセンター  
見学者 20名(2班編成)

## 8. 総括

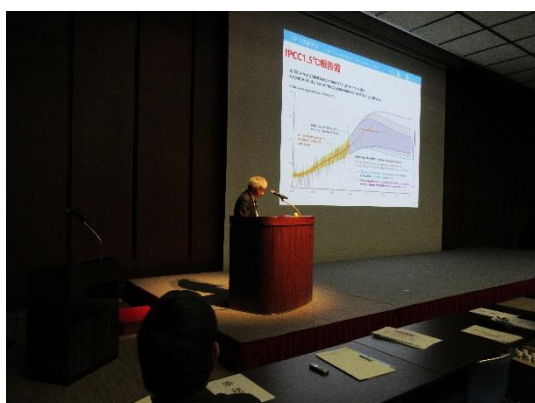
CO<sub>2</sub>排出量の増加に伴い、近年、異常気象などの気候変動影響が地球規模で増大しており、わが国では、台風や豪雨による大災害が毎年発生する事態が生じています。持続可能な成長のためには、社会全体を「脱炭素化」へ大胆かつ速やかに転換していくことが不可欠です。また、都市の安全・安心に寄与するためのBCD機能強化も必要です。

神戸市は、脱炭素に向けた水素の利活用や三ノ宮駅周辺再開発においては阪神・淡路大震災の経験を踏まえてエリア防災等に積極的に取り組んでおられることもあり、本年は神戸市で開催しました。

今年のシンポジウムも新型コロナウイルス禍の状況下にありましたが、web開催とせず、対面形式の開催としました。3蜜を避けるために、座席配置は他の受講者との距離を保つように入場者の上限を収容定員の1/2としました。参加者を絞ったにもかかわらず、定員を超える参加申込みがあり、定員を超える希望者は当初予定していなかった2階席を開放してもらい、そこで聴講してもらいました。会場の設備が整っていたことや感染状況が下火になっていた時期でもあり、コロナ感染対策は万全でした。

前半の基調講演・基調報告、後半のパネルディスカッションとも出演者の皆様より示唆に富む貴重なご見識をご披露いただくことができました。会員企業、自治体、一般の参加者からも大変好評でした。また、今年の特徴として関西地区での開催にかかわらず、関東からの参加者が多く約4割を占めたことでした。また、翌日の施設見学会も定員20名と極端に人数を絞ったために人選が大変でしたが、みなさん興味を持って熱心に見学いただきました。

シンポジウムにご参加の皆様、熱心にご講演いただいた講演者の皆様、また施設見学にご協力いただいた株式会社大林組の皆様に深く御礼を申し上げます。



基調講演



聴講風景



パネルディスカッション



神戸水素 CGS エネルギーセンター見学会